

アイザワ リサーチ

【審査番号:150304-A1】

2015年3月4日(水曜日)
 藍澤證券株式会社 投資リサーチセンター
 明松 真一郎

トルコ経済とリラ

リラ相場は対ドルで最安値更新

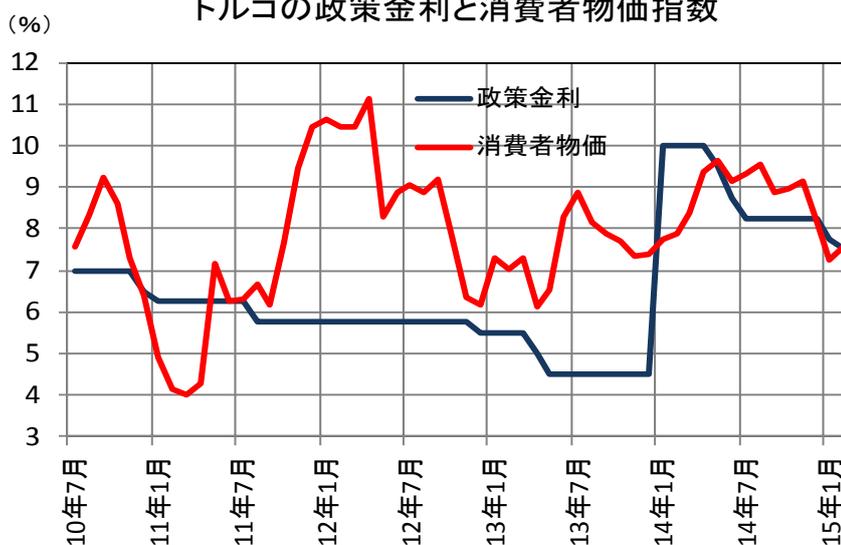
トルコは、国内景気の低迷、イラクやロシアなど海外情勢の悪化、と国内外の悪材料に苦しめられている。トルコ経済およびトルコリラの現状を確認したうえで、先行きの見通しについても確認してみよう。

2月24日に利下げを決定

トルコ中央銀行は、2月24日に開催された金融政策委員会で、0.25%の利下げを決定した。前回1月20日に次いで2か月連続の利下げで、2014年5月以降6度にわたって利下げを行なったことになる。なお、直近は各国ともインフレの低下を利下げ決定の際の判断基準の一つに挙げているが、トルコのインフレ水準はまだ不安定な状況だ。3月3日に発表された2月のCPIは、7.55%と政府目標の5%を大きく上回っている。本来、原油の純輸入国であるトルコは、直近の原油安がインフレ圧力を軽減しているはずだが、トルコリラ安が進行しているなかで輸入インフレ懸念がくすぶっており、なかなか思い切った金融政策を打ちづらいのが実情だ。なお、次回の金融政策委員会は3月17日に実施される予定で、現状では利下げの可能性が高いと予想される。

政府の利下げ圧力が強い中、2
 会合連続の利下げを実施

トルコの政策金利と消費者物価指数



(出所:ブルームバーグ、アイザワ証券作成)

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、よろしくお願いいたします。

■ ■ トルコを取り巻く内外環境

主要輸出相手国は、欧州、ロシア、中東

トルコ経済の先行きを考えるうえで、国内経済の状況以上に海外情勢が重要なポイントといえる。トルコにとっての最大の輸出相手国はドイツで、英国、イタリア、フランスなど EU 諸国の占める割合は大きい。現状では EU 全域の景気減速が鮮明で、中央銀行は景気浮揚に向けて資金供給を続ける方針を示している。トルコの輸出産業にとってはマイナスといえよう。

また、イラクとロシアのウェイトが大きい点も気がかりな点だ。イラクはイスラム国問題、ロシアは金融制裁、と共に先行きを予想しにくい爆弾をかかえており、現状のままでは当面不安定な状況からの脱却は望み薄だ。輸出主導での景気回復は難しいといえよう。

2014年トルコの輸出相手国上位

	国名	輸出額
1	ドイツ	15,151
2	イラク	10,894
3	英国	9,906
4	イタリア	7,142
5	フランス	6,465
6	米国	6,343
7	ロシア	5,944
8	スペイン	4,751
9	UAE	4,656
10	イラン	3,887

(出所:トルコ統計局、アイザワ証券作成)

■ ■ 6月実施の総選挙の行方に注目

6月の総選挙は、金融政策の先行きに大きな影響?

2015年6月にトルコでは総選挙が実施される。そのなかで注目されているのは、選挙後の経済チーム編成の変更だ。市場では、6月の総選挙後にババジャン副首相が経済チームのメンバーから外れるのではないかと、この見方が出ている。もともとババジャン副首相は現中央銀行総裁であるバチュシュ氏の総裁就任を推薦したという経緯があるため、ババジャン氏が経済チームから外れることになれば、バチュシュ氏が更迭される可能性が高まる。現状では、利下げを求める政府側に対して、中央銀行側が独立性を維持しようとしているが、中銀総裁が更迭される事態になれば、利下げ圧力がさらに強まり、通貨リラにとって押し下げ要因になろう。とりあえず、今後の金融政策の方向性に影響を与える6月の総選挙の行方が注目される。

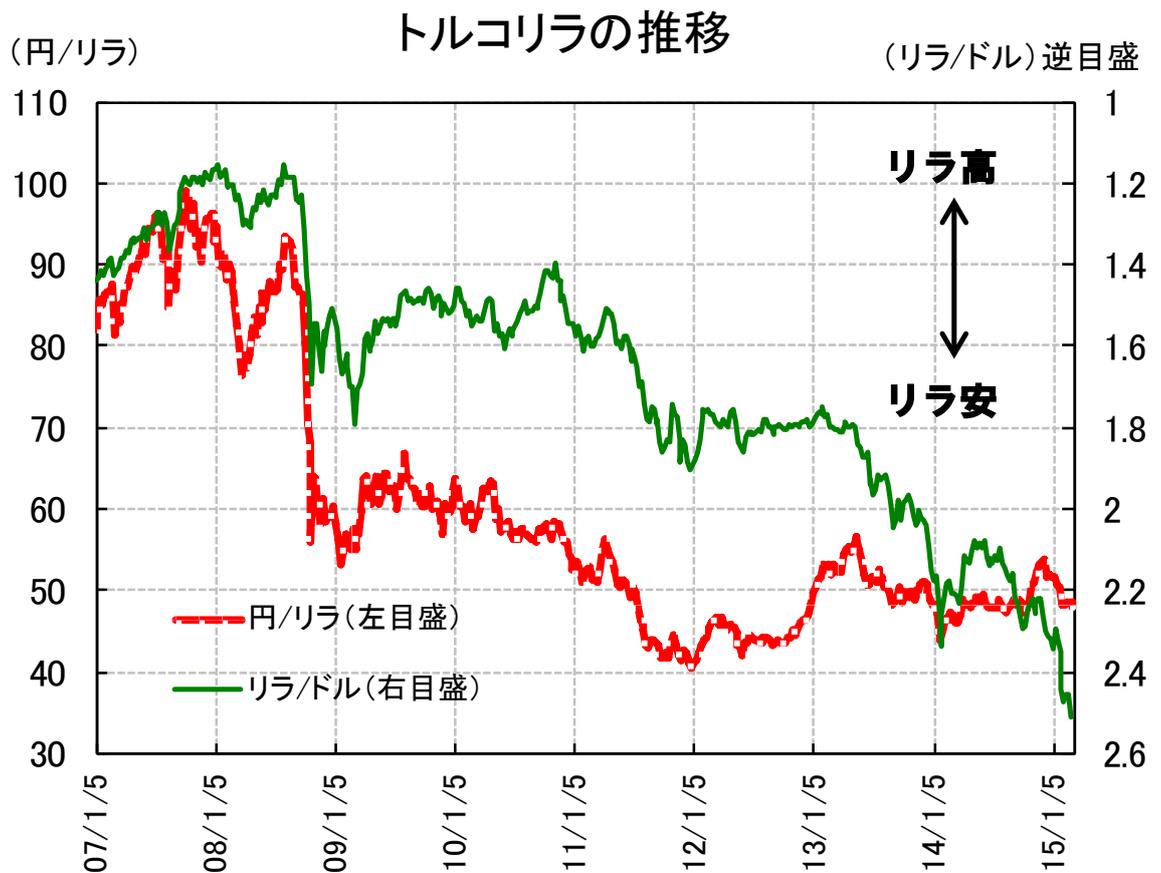
■ ■ リラ相場は、対ドルでは弱含み、対円では横ばい見通し

トルコリラは、対ドルと対円で異なる動きに

通貨リラのレートは、直近下落基調が鮮明で、対ドルレートでは、リーマンショック後につけた最安値を更新している。経済政策に対する不信感がリラ安につながっているといえよう。今後、原油安などを背景にした経常赤字幅縮小など、目に見えた変化が出てくるまで、リラの対ドルレートは弱含みで推移すると予想される。

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、よろしくお願ひいたします。

一方対円では、米国の利上げ観測の強まり、日本の緩和継続が見込まれているなかで円安ドル高気味で推移する可能性が高く、リラの対円レートは大きく変動しないと予想される。今後、景況感の飛躍的な改善や大手格付け機関による格上げなど、トルコに対する評価が高まってこないかぎり、大幅下落の可能性は少ないものの、上昇余地は限定的と考えてよいだろう。



(出所:ブルームバーグ、アイザワ証券作成)

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、よろしくお願いいたします。

主なリスクと留意点

【株式】

株式は株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。外国株式は為替の変動等により損失が生じるおそれがあります。詳しくは契約締結前交付書面をご覧ください。

【投資信託】

国内外の株式等を投資対象としており、組み入れた株式等の値動きや、組み入れた海外の株式等における為替の変動等により損失が生じるおそれがあります。詳しくは契約締結前交付書面(投資信託説明書[交付目論見書]、補完書面)をご覧ください。

【債券】

金利水準や為替の他、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動や、有価証券の発行者または元金の支払いの保証者の業務または財産の状況の変化などによって損失が生じるおそれがあります。詳しくは契約締結前交付書面・目論見書をご覧ください。

お客様にご負担いただく手数料等について

【国内株式】

国内株式の売買等にあたっては、取引口座に応じて以下の委託手数料(税込)をいただきます。

対面口座： 約定代金に対し、最大 1.2420% (最大 147,150 円、2,700 円に満たない場合は 2,700 円)

インターネット口座「ブルートレード」： インターネット発注 最大 1,620 円/コールセンター発注 最大 3,240 円

コンサルティングネット口座「アイザワプラス」： インターネット発注 最大 4,860 円/コールセンター発注 最大 9,720 円

【外国株式】

(1) 委託取引の場合

外国証券の外国取引にあたっては、取引口座に応じて以下の委託手数料(税込)をいただきます。

対面口座： 売買代金に対し、最大 0.864% (2,700 円に満たない場合は 2,700 円(買付けの場合のみ))

インターネット口座「ブルートレード」： インターネット発注 2,160 円/コールセンター発注 4,320 円

コンサルティングネット口座「アイザワプラス」： インターネット発注 6,480 円/コールセンター発注 12,960 円

(2) 国内店頭取引の場合

外国証券の国内店頭取引の場合は、所定の手数料相当額を含んだお客様の買付け及び売却の単価を当社が提示いたします。

※ 外国証券の外国取引にあたっては、外国金融商品市場等における売買手数料及び公租公課その他の賦課金が発生します。外国取引に係る現地諸費用の額は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額をあらかじめ記載することができません。

※ 外国証券の売買、償還等にあたり、円貨と外貨を交換する際には、外国為替市場の動向をふまえて当社が決定した為替レートによるものとします。

【投資信託】

投資信託の場合は商品ごとに設定されたお申込み手数料および信託報酬等をご負担いただきます。詳細は各商品の投資信託説明書をご覧ください。

【債券】

債券を募集・売出し等により、または当社との相対取引により購入する場合は購入対価のみをお支払いいただきます。また、外貨建て債券の売買、償還等にあたり、円貨と外貨を交換する際には、外国為替市場の動向をふまえて当社が決定した為替レートによるものとします。

金融商品取引法に基づく表示事項

■ 本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等： 藍澤証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第6号

(本社) 東京都中央区日本橋 1-20-3

加入協会： 日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

当社が契約する特定第一種金融商品取引業務に係る指定紛争解決機関

： 特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター (略称：FINMAC)

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、よろしくお願いたします。